

研究・調査報告書

報告書番号	担当
38	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol drinking and colorectal cancer in Japanese: a pooled analysis of results from five cohort studies 日本人における飲酒と大腸ガン：5コホート研究からのプール解析	
執筆者	
Mizoue T, Inoue M, Wakai K, Nagata C, Shimazu T, Tsuji I, Otani T, Tanaka K, Matsuo K, Tamakoshi A, Sasazuki S, Tsugane S; Research Group for Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2008 Jun 15;167(12):1397-406	
キーワード	
飲酒、大腸ガン、生活習慣、日本、疫学	
要旨	
<p>背景・目的： 大腸がんは、アルコールと関連する悪性腫瘍だが、アルデヒド脱水素酵素に代謝の遅い変異の頻度の高いアジアの集団において、その関連は強いように見える。日本人における飲酒と大腸がんの関連を検討するため、アルコール摂取量を評価するための検証済みの質問票を用いて、ベースラインで飲酒量を評価した5つのコホート研究のデータを用いた。</p> <p>方法： 個々のコホート研究ごとに、共通の因子で調整してハザード比を計算し、その後ランダム効果モデルを用いて結合した。</p> <p>結果： 2,231,010人年のフォローアップ期間中（1988-2004年の間の期間）に、大腸ガン2,802症例が確認された。男性では、各アルコール摂取量により階層化した群（23-45.9g/day, 46-68.9 g/day, 69-91.9g/day、92 g/day以上）の、非飲酒群に対するプールした多変量調整ハザード比プールは、それぞれ 1.42 (95%信頼区間 (confidence interval, CI) : 1.21-1.66)、1.95 (95%CI : 1.53-2.49)、2.15 (95%CI: 1.74-2.64)、2.96 (95%CI: 2.27-3.86)であった（傾向性の p<0.001）。この関連は、結腸ガンと直腸ガンの両方で明らかだった。有意な正の関連は、女性でも観察された。男性において、大腸ガン症例の4分の1が23g/day以上のアルコール摂取に起因した。</p> <p>結論： アルコールと大腸がんの関連は、欧米の集団よりも日本人の集団で明らかかなようだ。この違いが遺伝的要因、あるいは環境要因によるものなのかは明確にする必要がある。</p>	